

エリアマネジメント事業部 プロジェクト事例

アローブ

おおぶ文化交流の杜allobu



交流を創造する多様な専門性を持つ、JTB コミュニケーションデザイン（以下、JCD）。エリアマネジメント部では、「地域の活性化」を目的に、施設運営プロデュースをはじめ、エリアマーケティング・集客や送客の促進・コンテンツ開発や異業種タイアップなどを通じ、地域の価値向上・経済効果創出に尽力しています。

しかし時には、公共施設の運営にとどまらず、地域の賑わいを高めたり、経済効果の創出に貢献したりすることも。今回は、愛知県大府市にある、「おおぶ文化交流の杜allobu(アローブ)」が伴走した「知多半島オリーブストリート事業」について、プロジェクトを担当したエリアマネジメント部西日本交流拠点事業局の森 佐枝子さんにうかがいました。

おおぶ文化交流の杜「アローブ」

プロジェクトストーリー

Project Story

交流を創造する多様な専門性を持つ、JTBコミュニケーションデザイン（以下、JCD）。エリアマネジメント部では、「地域の活性化」を目的に、施設運営プロデュースをはじめ、エリアマーケティング・集客や送客の促進・コンテンツ開発や異業種タイアップなどを通じ、地域の価値向上・経済効果創出に尽力しています。

しかし時には、公共施設の運営にとどまらず、地域の賑わいを高めたり、経済効果の創出に貢献したりすることも。今回は、愛知県大府市にある、「おおぶ文化交流の杜allobu（アローブ）」が伴走した「知多半島オリーブストリート事業」について、プロジェクトを担当したエリアマネジメント部西日本交流拠点事業局の森 佐枝子さんに聞きました。

プロジェクト担当者

JTBコミュニケーションデザイン
エリアマネジメント部西日本交流拠点事業局

プロデューサー

森 佐枝子

JTBで海外旅行の仕事をしていましたが、尊敬する上司に誘われアローブのマネージャー（副責任者）に転身。3年間の施設勤務後、現在はエリアプロデューサーとしてアローブを担当している。休日には「知多半島オリーブ育み隊」として、オリーブ農園づくりに参加中。



はじまりは、施設が主催するオリーブ講座から

2014年に開館した「おおぶ文化交流の杜allobu（以下、アローブ）」は、愛知県内最大級の延床面積を有する図書館をはじめ、ホール、会議室、ギャラリー、レストランなどを有する複合文化施設です。



市民が質の高い文化・芸術に触れ、自ら創造・表現活動を行い、お互いを認め合いながら交流を図ることを目的としています。その活動のひとつとして、子どもから大人まで参加できる様々な講座やワークショップを開催しています。

『知多半島オリーブストリート事業』は、アローブが主催する文化講座からはじまりました。2020年に「イタリアの旅行ガイド」、「芸術文化」、「食文化としてのオリーブ」の3つからなる『イタリア講座』を開催することに。その中のオリーブの講師を大府市内にあるオリーブオイル専門店『白いオリーブ』店主の亀山絵美さんにお願ひしました」

亀山さんはイタリアに20年ほど住み、現地でオリーブ栽培やイタリアソムリエ協会のソムリエ養成コース、オリーブオイルソムリエ養成コース運営に励んでいた方です。数年前に故郷の大府市に帰国すると、オリーブを中心にして、人・町・文化を繋ぐことを夢に、オリーブオイル専門店をはじめました。

「知多半島はイタリアと風土が似ていることもあり、亀山さんはこの環境を生かし、本場イタリアの専門家と繋がれば必ず高品質のオリーブオイルができるに違いないと考えていたそうです。そして、『ゆくゆくは100%知多半島産のオリーブオイルを作り、知多半島の名物にしたい』と。また、オリーブ畑を作ることで人と人との交流が生まれ、色々な社会問題を解決に導くのではないかと考えていました」

日本でオリーブの魅力を伝えることを使命だと感じていた亀山さんとアローブでのオリーブ講座はマッチしていました。アローブが独自に行った告知も功を奏して、亀山さんの講座はすぐに定員に達してしまうほどの人気講座となりました。

おおぶ文化交流の杜「アローブ」

コロナで見た「オリーブ＝新たな観光資源」の可能性

そんな中で訪れたのが、新型コロナウイルスの感染拡大です。

「それまでの活動はストップしてしまいましたが、奇しくも、JTBグループの基本に立ち返り、施設としてできることを見直す機会となりました。コロナ後を見据えた観光地への国の助成金制度も生まれ、その要項を確認する中で、オリーブには大府市の新たな観光資源になる可能性があると感じたのです」

以前から、亀山さんのオリーブに対する想いや故郷である大府市へ貢献したいという気持ちを知っていた森は、アローブの松井館長やスタッフ協力のもと助成金制度を利用して、オリーブをフックにした新たな事業をはじめめることを提案しました。

「亀山さん一人で、知多半島で世界に誇れる国産オリーブオイルを作るためのクラウドファンディングを実施されていたこともあり、私たちの提案も快く聞いていただけました。事業計画書作りを含む申請作業を心配されていましたが、この辺りは私たちJCDがコンサルタントとして伴走支援するとお約束したことで、助成金の申請を決められました」



オリーブ作り講座



オリーブ農園バーベキュー体験



利きオリーブ



オリーブオイルの活用と試食会

亀山さんとともに考案した「知多半島オリーブストリート事業」は、特産品を目指した知多半島産100%のオリーブオイルの生産が目的の一つです。そのために必要なオリーブ栽培農家の参画者を増やし、オリーブ園づくりのサポートがメイン事業となります。

さらに、オリーブの栽培から食文化までを学べる講座を開設し、農園づくりと一緒にサポートしてもらうボランティア団体を結成し、事業促進を図ります。翌年からは、大府市をモデルに、知多半島全域にオリーブ園の拡大と搾油所を開設し、オリーブで知多半島をつなぐ「オリーブストリート」を実現するというものです。

2022年9月、「知多半島オリーブストリート事業」は無事に採択を受け、翌月から活動を開始しました。

JCDが伴走した「知多半島オリーブ事業」とは？

助成金は、地域の特産品作りを目的としたものだったため、好評だったオリーブ講座を含む3つの取り組みで申請・実施しました。

(1) 知多半島オリーブ講座

アローブで行っていた講座の続編。オリーブの木の植樹から剪定収穫体験、オイルの精製などのほか、オリーブについて植物研究や食文化まで幅広く学ぶ座学、コロナでのオンラインでのイタリア現地との交流、利きオリーブなどを含めた全5回講座。テレビなどにも出演する料理研究家の協力もあり、好評を得た。

(2) オリーブを使った新商品開発

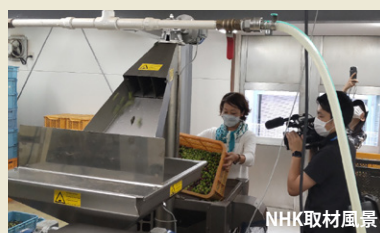
知多半島の特産品の一步として、オリーブオイルを使った新商品開発を実行。常滑市にある有名フレンチレストランシェフの協力のもと、美浜の塩などの周辺の特産品と合わせたふりかけやバーニャカウダソースを商品化した。

(3) ボランティア団体「知多半島オリーブ育み隊」

オリーブ栽培を長く続けるために、「知多半島オリーブ育み隊」というボランティアを結成。市民から提供された休眠状態の畑や空き地を、育み隊のメンバーがオリーブ畑に生まれ変わらせていった。半年間で大府市内にオリーブの木100本を植樹。

【亀山さんのメディア出演情報】

- ・NHKローカルワイドニュース番組「まるっと!」
- ・ZIP-FM「ITALIANA」内の情報コーナー「Nani Cole(ナニコレ)」
- ・中日新聞 社説「地域農業の未来 オリーブ畑で捕まえて」
- ・ケーブルテレビ
- ・大府商工会議所会報 etc



また、この頃になると亀山さんの活動が注目を集めて、メディアへの露出が増えました。地元のテレビ局が密着取材をしたことも。

「伴走支援の一環として、私たちがプレスリリースも作成しました。元々、亀山さん自身も素晴らしい人脈をお持ちなのですが、情報発信部分でも連携団体である知多印刷(株)様と一緒に可能な限り協力しました」

亀山さんの想いはメディアに乗り、多くの賛同者が生まれ、講座や新商品開発はスムーズに進みました。また、大府市やJCDをはじめとする企業がサポートしていることで事業への信頼が高まり、畑や空き地を提供したいという申し出も多数ありました。その後、大府市の近隣エリア(東浦町など)にオリーブ園を増やし、アグリツーリズムの拡大にも貢献。さらには、知多印刷(株)様のお力で搾油所も開設され、各取り組みも順調に進んでいきました。

「肌感覚ですが、オリーブを軸にした笑顔の輪が広がっているように感じます。それは、大府市だけに限りません。微力かもしれませんが、新たな観光コンテンツの創出、地元企業の活性化といった知多半島エリアの抱える地域課題に、多少の貢献ができたのではないかと思います」

おおぶ文化交流の杜「アローブ」

世界に誇れる大府市の特産品を目指して

旧来型の観光地のイメージを脱し、新たな魅力を発見、発信しようとしている知多半島。その玄関口にあたる大府市にとって、オリーブは利益をもたらす新たな名産候補として注目を浴びるようになりました。また、オリーブは、大府市が名産化に向けて推進を続けているワインとの親和性も高いとあって、商工業ウェルネスバレー推進課のお墨付きもいただきました。

「オリーブ自体に人を惹きつける魅力があったことや亀山さんの努力があってこそその結果です。大府市としては、この点を評価して下さっていましたが、アローブというひとつの文化施設をきっかけに、その運営企業が地元の企業にノウハウを提供し、後ろ盾になって助成金申請のサポートを行い、国からの支援を得られたことも、新たな発見だったようです」

現在、亀山さんが手がけるオリーブオイルは、知多半島の有名レストランで使用されているほか、各地で開催されるフードフェアやマルシェで販売されたりと、少しずつ活動場所が広がりつつあります。昨年からは中部国際空港セントレアで期間限定ショップとして出店するようにもなりました。「知多半島オリーブ講座」のVol.2も継続実施中です。

また、今回の事業をきっかけに、セントレアをはじめとする企業もオリーブに注目し、知多半島の各地で新事業がスタートしました。オリーブで知多半島をつなぐ「オリーブストリート」が実現に向けて動き出した今、その活動を次世代につなげていくことも、亀山さんが思い描く未来です。知多半島オリーブ育み隊の参加を通じて、悩みを抱えた若者が再び生きる力を取り戻していくケースもあるとのこと。

「亀山さんの『オリーブで人と人、人と町をつなぐ』という考えは、JCDおよびアローブとも共通する部分が多いので、どこかのタイミングで再びコラボができればと考えています。もちろん、オリーブ以外にも『人と人、人と町をつなぐ』ことは可能です。今後も、亀山さんのように地域に根ざし、地域の活性化を目指している方々をサポートして、その地域の成長に貢献していきたいですね」



オリーブ収穫



オイル生産



オリーブオイル



オリーブバーニャカウダ



知多半島オリーブ

知多半島オリーブストリートPR動画





おおぶ文化交流の杜allobu

〈事業の概要〉

知多半島にはオリーブ栽培に適した温暖な気候があり、現在大府市・南知多町等でオリーブが栽培されている。しかし、知多半島産100%のオリーブオイルを精製するには量が足らず、他のオリーブとブレンドしているのが現状。そこでオリーブ栽培農家を増やすためオリーブ園づくりをサポートする事業を展開。オリーブの栽培から食文化までを学ぶ講座を開設し、農園づくりと一緒にサポートしてもらう「知多半島オリーブ育み隊」も結成された。次年度以降、大府市の成功事例をもとに、知多半島全域にオリーブ園を拡大し、搾油所も開設。オリーブで知多半島をつなぐ「オリーブストリート」を実現していく。

〈実施体制〉

- 株式会社 Italiana / 全体統括、事務局運営、講座等のコンテンツ開発、オリーブ栽培アドバイザー
- 大府市 / 連携自治体
- 大府市観光協会 / 知多半島地域連携構築
- イタリア文化交流協会 / イタリアとの文化交流支援
- 株式会社 JTB コミュニケーションデザイン / 大府市文化拠点アロープでの講座運営、広域誘客宣伝、ツアー造成支援
- 知多印刷株式会社 / 域内への事業告知

〈地域の課題〉

- ①知多半島産のオリーブは生産量が少なく、知多半島産100%のオリーブオイルを精製するには量が足りない。
現状の「知多半島オリーブ」は、イタリア産や小豆島産のオリーブとブレンドして商品化している。
- ②若い人の農家離れや人口減少により衰退傾向にある地域農業だが、
収益性の高いオリーブ農家を増やすことで、回復への起爆剤とする。
- ③知多半島は近年アサリの不漁や海水浴客の減少などで年々観光客が減少し、新たな観光資源が求められている。
- ④観光消費額の低下も課題。地域にお金を落とすための高付加価値コンテンツや商品が必要。

〈実施内容〉

◆オリーブ園の運営を支援するためのコミュニティ結成と「知多半島オリーブ講座」(アグリツーリズム)開講

オリーブ農家を増やすために、サポートするコミュニティを結成し、体験プログラム(プログラム造成の為のテスト)として「知多半島オリーブ講座」を開講し、名古屋圏に向けて参加者を募集。「知多半島オリーブ講座」はオリーブの木の植樹から剪定・収穫体験などの他、オリーブの植物研究や食文化まで幅広く学び、オンラインで本場イタリアとの交流も実施(アロープで開催)。結果として2022年度には大府市内にオリーブの木100本を植樹し、次年度以降知多半島の他地域(武豊町、美浜町など)にオリーブ園を増やし、アグリツーリズムを拡大していく。

◆知多半島オリーブを使った特産品・メニューの開発

地域の飲食店や観光事業者等に協力を仰ぎ、知多半島オリーブを使った新しい特産品やメニューを開発してもらい、提供するお店を「知多半島オリーブストリート(ウェブ サイト)」として発信する。